

咀嚼機能制御補綴学入門（木本克彦）

Introduction to Prosthodontics and Oral Rehabilitation (Katsuhiko Kimoto)

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 補綴・インプラント学
- ③ 補綴治療学
- ④ デジタル・デンティストリー
- ⑤ 高次脳機能

授業概要

歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について学ぶ。本講義では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラント・義歯などの補綴治療の術式とそれに関わる新規材料の選択、さらには咬合咀嚼刺激による全身疾患と高次脳機能の関連について、最新の研究論文を題材に講義を行う。

授業科目の学修目標

咀嚼機能制御補綴学は、失われた顎口腔機能を回復し、健康に過ごすための予防医療の構築までを包括する学問であり、本科目では補綴治療とそれに伴う臨床研究を行う上での必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 咀嚼機能制御補綴学総論
 - ・補綴治療学概論 2コマ 木本克彦
 - ・臨床研究における倫理指針 4コマ 木本克彦
- ② 咀嚼機能制御学各論
 - ・クラウン・ブリッジ補綴学の基本 5コマ 木本克彦
 - ・有床義歯補綴学の基本 5コマ 木本克彦
 - ・インプラント治療学の基本 5コマ 木本克彦
 - ・デジタルデンティストリー 5コマ 木本克彦
 - ・高次脳機能との関連 4コマ 木本克彦

教科書および参考書

咀嚼機能補綴学入門 配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

咀嚼機能制御補綴学入門では授業項目とそれに関連する学術論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 補綴治療学の基本とその倫理規範を理解し説明することができる。
- ② 咀嚼機能制御補綴学を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、咀嚼機能制御学各論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

咀嚼機能制御補綴学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。